
岡崎市新文化会館整備基本構想

平成21年3月

岡 崎 市

目 次

1．新文化会館整備の必要性	1
(1) 岡崎市の文化ホールの現状	1
(2) 岡崎市の文化ホールをとりまく課題	8
2．新文化会館の基本的な考え方	9
(1) 新文化会館整備の基本的な考え方	9
(2) 新文化会館整備の基本方針	10
3．新文化会館の機能と施設構成	14
(1) 舞台機能と構成	14
(2) 附属機能と構成	15
(3) その他機能と構成	15
4．建設候補地の検討	16
(1) 建設候補地と立地条件	16
(2) 建設候補地の選定	21
5．施設整備にむけて	21

1.新文化会館整備の必要性

(1)岡崎市の文化ホールの現状

ア 市民会館とせきれいホールの老朽化が進んでいます

市民会館は、1967年(昭和42年)の建設後約40年が経過し、老朽化が進んでいます。また、せきれいホールも当初は愛知県が1961年(昭和36年)に建設した建物で、老朽化が進んでいます。両ホールとも、今までに不具合を解消するための部分的な建物改修、及び必要に応じた設備機器類の更新が行われてきたものの、空調・電気・衛生設備は既に耐用年数を超え、故障発生の頻度も多くなり、多額の維持管理費を要するうえ、修理部品調達も困難な状況になっています。

イ 市民会館とせきれいホールの施設や設備には使いにくいという問題があります

設計されてから時間が経過していることもあり、市民会館とせきれいホールの施設や設備の水準は低くなっています。演劇、音楽といった舞台芸術の公演活動と鑑賞活動についての主な問題点を以下に掲げます。

演劇活動上の問題点

- ・ 舞台道具の入口である搬入口が狭く、またトラックの側面からの出し入れができないため、舞台道具の搬出入に時間がかかる。
- ・ 舞台袖と舞台奥行が不足しているため、舞台道具のとりまわしができず、舞台転換に支障をきたす。
- ・ 楽屋廊下が狭いため、舞台衣装を着たままですれ違うことが難しい。

音楽活動上の問題点

- ・ 音の響きが悪く、演奏を聴きとりにくい席もある。
- ・ 空調機の送風音が大きいため、クラシック音楽の繊細な演奏が聴きづらい。
- ・ 出入口の扉が二重化されていないため、外部騒音の影響を受け易い。
- ・ 楽屋廊下が狭いため、楽器を持ったまますれ違うことが難しい。

鑑賞活動上の問題点

- ・ ロビーが無いので、開場まで建物内に入れない。
- ・ 化粧室が少ないため、利用が集中する休憩時間に長い行列ができる。
- ・ 椅子の座り心地が悪く、長時間同じ姿勢で鑑賞することに支障をきたす。
- ・ 市民会館には駐車場が少ないため、自家用車での来場に支障をきたす。

ウ 市民会館とせきれいホールの老朽化により 緞帳と固定席を持つホールの魅力が低下しています

岡崎市の文化ホールは、せきれいホール、市民会館、竜美丘会館、甲山会館、シビックセンターコンサートホール「コロネット」の順に建設されてきました。

平成14年に建設されたシビックセンター「コロネット」は、音楽専用ホールとして、クラシック音楽の繊細な音の響きや質感が表現された音楽を楽しむことができる音響を重視した現代的な設備が整っています。

その一方、緞帳を持つ固定席ホールである、昭和36年建設のせきれいホール、昭和42年建設の市民会館は老朽化し、ホールとしての魅力が低下しています。

また、可動席を持ち自由なレイアウトが可能な施設として竜美丘会館、甲山会館を設置していますが、観客席に段差がないため前席の観客の陰になる部分が生じ、舞台芸術に適したホールとはいえません。

こうしたことから、岡崎市の文化ホールは、舞台芸術に適した、緞帳を持つ固定席ホールの魅力が低下しているといえます。

岡崎市の文化ホール

ホール名	建設年 (開館年)	席数	緞帳の有無	座席		主な用途				
				固定席	可動席	室内楽	オーケストラ	オペラ	演劇	舞踊
せきれいホール	昭36 昭59)	500								
市民会館	昭42	1,548								
竜美丘会館	昭55	1,008								
甲山会館	昭62	300								
コロネット	平14	425								

「主な用途」については、専用設計が、利用に適しているが、利用可能が
竜美丘会館は、1,008席のうち188席は2階席(固定席)である。

せきれいホールは当初、愛知県が昭和36年に建設し、大規模改修のうえ昭和59年2月に岡崎市の施設として開館した。

エ 市民会館やせきれいホールを改修しても使いにくいという問題は解消できません

岡崎市のホールを中心とした文化施設のあり方やその方向性、文化施設における文化行政のあり方を検討するため、市では平成 14 年から 15 年にかけて岡崎市文化施設等懇話会を設置し、有識者や公募市民により検討作業を実施しました。

検討では、市内のホールの中でも特にハード面において要望が多かった市民会館を中心議題とし、市民会館を改修することで使い勝手の良いものにすることが可能かどうかを検討してきました。

最も課題としてあげられたのは 舞台の奥行きや袖および楽屋を含めた舞台周り部分の狭さ 座席の老朽化とともに幅や間隔が狭く、長い間の着席や開場後の移動が困難であるという 2 点でした。各課題についての検討結果は下記のとおりです。

課題 舞台の奥行きや袖及び楽屋を含めた舞台周り部分が狭い。

解決案 現在使用している楽屋をつぶして、後へ舞台を広げる。

楽屋の確保は現リハーサル棟の改修利用で可能としても、楽屋上にあたる屋根部分は舞台屋根からは 1.5m ほどの段差があり、これを解消するためには躯体自体の壁を壊して全体に後に延ばさざるを得ないため、建物構造の面から得策でない

解決案 現在の舞台際にある座席を前から数席つぶして、前に舞台を広げる。

単純に座席数が減少するばかりでなく、現在の花道部分やオーケストラピットが無くなるとともに、緞帳や各種の吊物を付け替える等の大幅な工事が必要となり、予算と時間を費やした割には効果を期待できないと考えられる。

以上のような理由から、課題 についてはどちらの方法であっても舞台袖の拡大については、ほとんど効果がないという結論に至りました。

課題 座席の老朽化とともに幅・間隔とも狭く、長い間の着席や移動が困難である。

解決案 座席そのものを入れ替える。

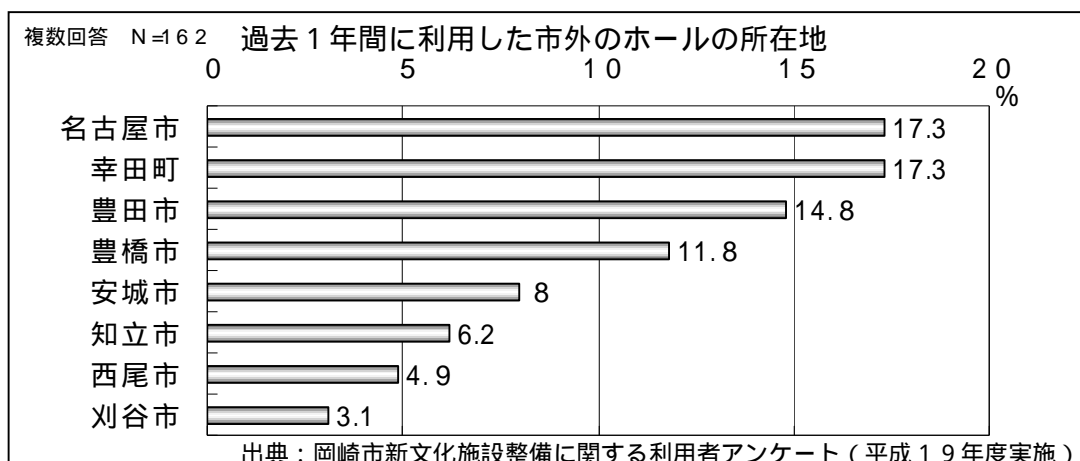
幅・間隔とも広げるためには少なくとも現座席数の 2 割以上は減らさざるを得なく、また、床面は会場の中央付近まではスロープ状であるため比較的に入れ替え作業がたやすいとしても、後段側は椅子の設置に合わせた階段状になっているため、これも床面自体の大幅な改造工事を伴うものである。

以上のように、市民会館については、改修による対応では問題点の抜本的な解消にはいたらず、予算並びに工事によるホールの使用不可能な期間を費やす割には、利用者の満足感に対する効果は期待できないという結論に至りました。

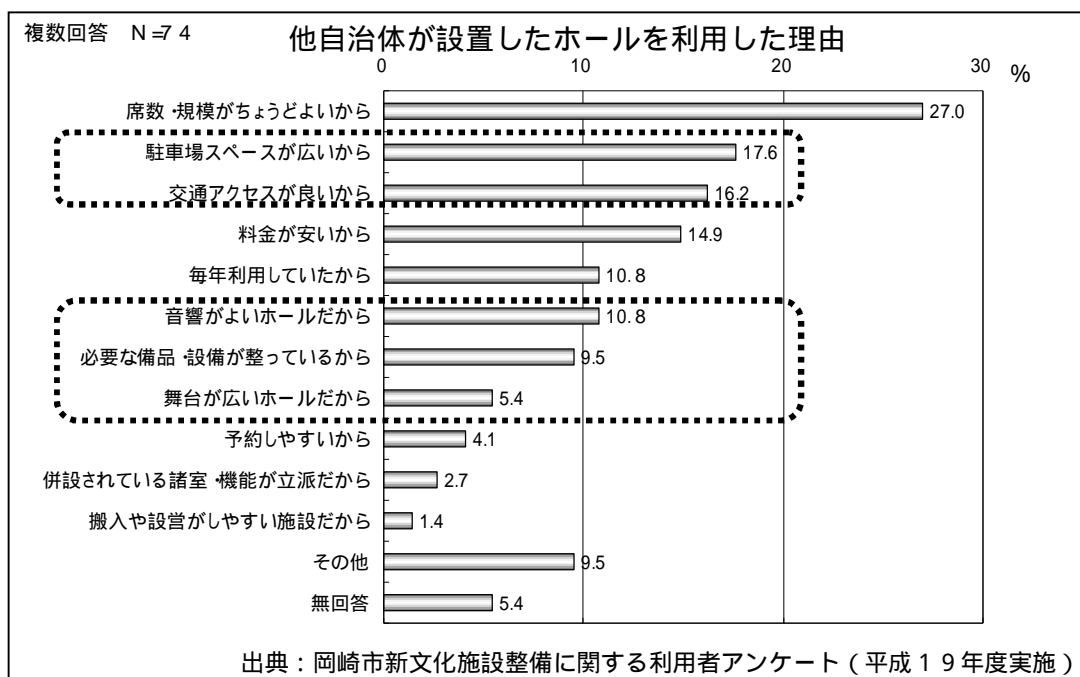
一方、せきれいホールについても同様に、構造的に拡張が不可能で、建物を改修しても「使いにくい」という問題が解消できません。

オ 芸術団体や市民の活動の場が市外に流出しています

岡崎市内にはレベルの高い芸術団体や市民が存在していますが、平成19年度に実施したアンケートでは、市内の文化ホールを利用した団体のうち、過去1年間に他自治体等が設置したホールを利用したことがある団体の割合は45%にのぼり、相当数の団体が市外のホールで活動していることがうかがえます。



他自治体が設置したホールを利用した理由としては、それぞれの公演内容に合う席数や規模のホールを選んだ結果として市外のホールを利用したという傾向が多く見られたものの、駐車スペースの広さや交通アクセスの良さといった利用環境や、音響や設備、舞台の広さなど、使い勝手の良い施設を求めて活動の場が市外へ流出している割合も高いことがうかがえます。

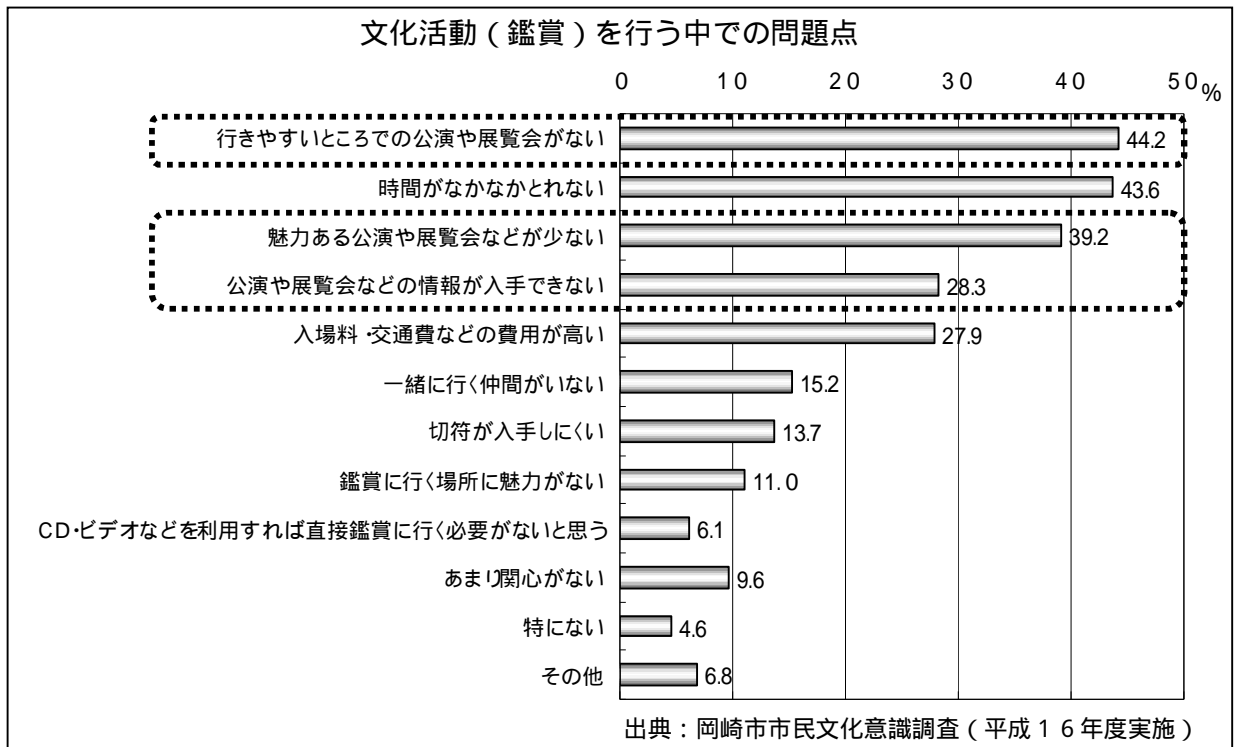


カ 鑑賞の機会が少ないことや、情報が入手しづらいことが問題になっています

平成16年に実施した岡崎市市民文化意識調査で、文化的な鑑賞活動を行う中での問題点を調査しました。

その結果、鑑賞の時間がとれないという、市民が個人で抱える問題も多い一方で、行きやすいところでの公演や展覧会がないことや、魅力ある公演や展覧会などが少ないという回答も多く寄せられ、市民にとって身近な市内での舞台公演や美術作品の展覧会を充実させていくことが必要であることがうかがえました。

また公演や展覧会などの情報が入手できないという回答も多く寄せられていることをふまえ、今後のホール建設にあたっては舞台芸術の公演情報を提供する拠点を創設する必要があることがうかがえます。



上位計画における位置づけ

市民会館の老朽化を背景とし、岡崎市では岡崎市総合計画「岡崎 21 世紀プラン」や岡崎市文化振興推進計画において、新たな芸術文化創造拠点づくりとして新文化会館の整備を掲げてきました。

それぞれの計画において示された内容は以下のとおりです。

ア 岡崎市総合計画 岡崎 21 世紀プラン

岡崎市では平成 12 年 3 月に「人が輝く、活気に満ちた、美しい都市 岡崎」を将来都市像とした「岡崎 21 世紀プラン～第五次岡崎市総合計画」を策定しました。この計画では文化施設をめぐる現況と課題を以下のとおり挙げています。

本市の文化・芸術の拠点施設は、規模別に概ね整備されていますが、社会情勢の変化と価値観の多様化の中で、より高い機能を持った施設が求められています。

現状の市民会館、せきれいホールなどは老朽化も進んでいるため、多様な機能を兼ね備えた高機能な会館や現況施設の改修が必要です。

市民一人ひとりが自主的に文化活動を推進し、優れた芸術文化に接する機会と発表の場を提供するためには、より高度な設備機能を備えた施設の整備や既存施設の整備充実を進めるとともに、文化施設の効率的活用と各施設間の有機的連携を推進していく必要があります。

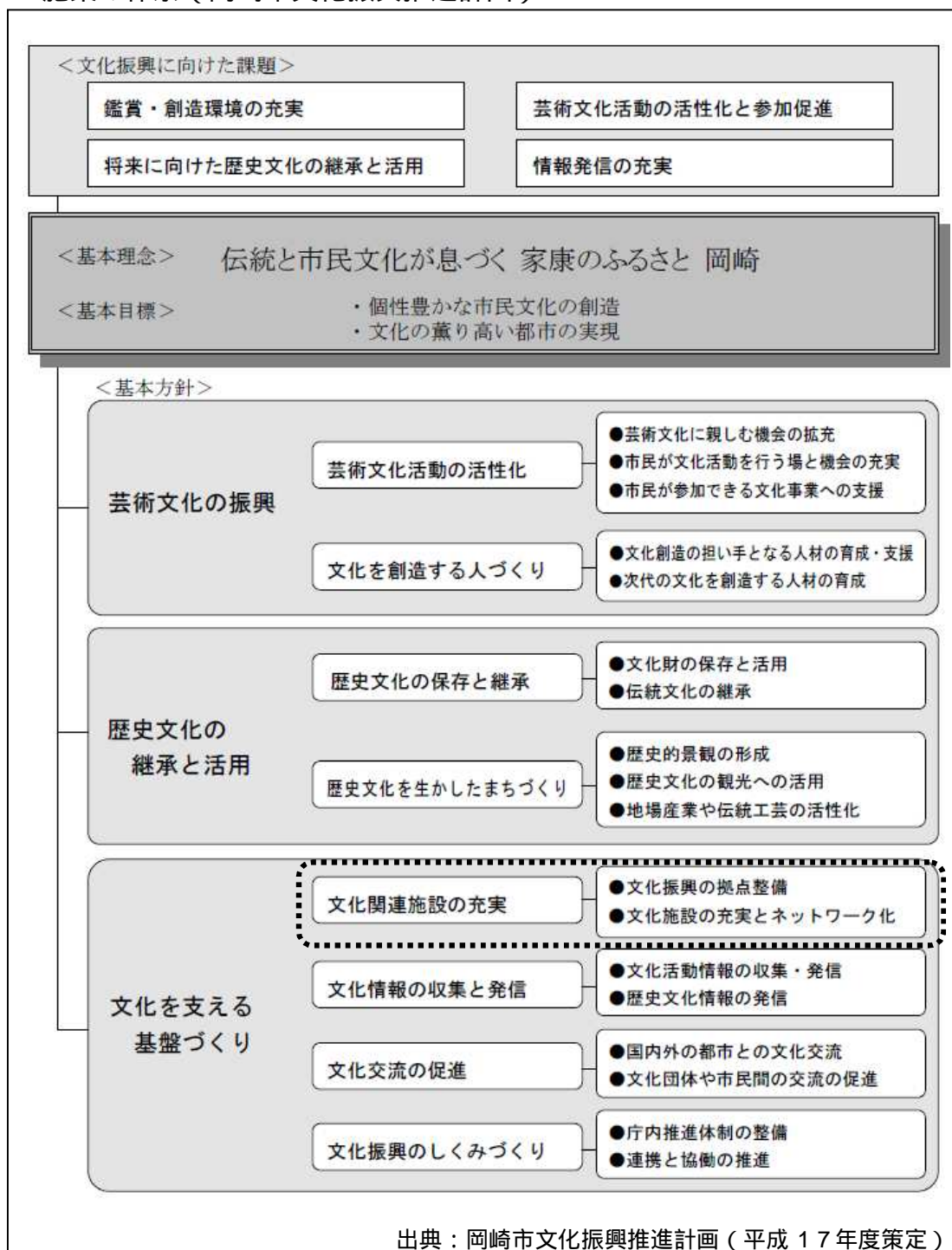
このような課題に基づき、質の高い様々な文化活動を支える施設の整備充実を図るため、文化拠点施設の整備を進めることとし、より質の高い機能を備えた新しい文化施設の整備を検討することとしました。

現在進めている岡崎 21 世紀プラン第 9 期実施計画では、芸術文化の中心的な役割を果たす施設として新しい文化会館の建設をすすめることを主要事業として掲げています。

イ 岡崎市文化振興推進計画

岡崎市では平成 18 年 3 月に「岡崎市文化振興推進計画」を策定しました。このなかで岡崎市の文化振興における課題として、他都市に先駆けて整備した施設が老朽化しつつあるため、市内にある文化施設の機能拡充を進め、鑑賞・創造環境の充実に努めることとしています。岡崎市文化振興推進計画に定めた施策の体系については次に示すとおりです。

施策の体系（岡崎市文化振興推進計画）



文化振興推進計画では、基本方針である「文化を支える基盤づくり」を実現するため、文化関連施設の充実として文化施設の充実とネットワーク化を掲げ、そのための具体的な取り組みとして新市民会館の建設を掲げています。

(2)岡崎市の文化ホールをとりまく課題

岡崎市の文化ホールの現状から抽出された課題をまとめると、以下のようになります。

区 分	主な課題
文化ホール の課題	<ul style="list-style-type: none">・ 市民会館とせきれいホールを芸術活動の拠点として整備するためには、舞台、楽屋、搬入口を拡張し、舞台機構と音響設備を更新し、さらにリハーサル室と駐車場を充実させる必要がある。・ 市民会館とせきれいホールは構造上拡張ができないため、楽屋と舞台袖を広げるためには、現行建物を取り壊し新築する必要がある。・ 市民会館とせきれいホールは施設や施設の老朽化が進行しており、大規模な更新が必要な時期を迎えている。
芸術文化 活動の 課題	<ul style="list-style-type: none">・ 老朽化した文化ホールの施設や設備が使いにくく利用を敬遠された結果、観賞の機会が少なくなっており、芸術公演の会場として魅力の高いホールを整備する必要がある。・ 市内にレベルの高い芸術団体や市民が存在するが、活動は条件の良い市外のホールに流出しているケースも多いため、市内に活動の拠点を設け芸術活動を活発にする必要がある。・ 岡崎の芸術文化活動をさらにレベルアップするために、芸術文化活動の情報を収集、発信する拠点が必要である。

市民会館やせきれいホールが舞台芸術活動の拠点施設としての役割を果たすためには、備えるべき空間や設備性能などが不足しており、市民会館を施設、設備ともに更新しなければその実現は不可能です。

すなわち、上記に掲げた課題を解決するためには、本市にふさわしい舞台芸術活動の拠点施設として新文化会館の整備が必要だといえます。

2.新文化会館の基本的な考え方

(1)新文化会館整備の基本的な考え方

文化政策のもっとも基本的な目標は、人間が持つ文化的尊厳を護り、市民一人ひとりが芸術文化を享受し創造性を発揮できる社会を構築することにあります。

あらゆる市民は、芸術文化に親しみ創造活動を行う権利をもっています。人間の文化的尊厳を護ることは、市民の文化的人権を保障していくことに繋がります。すべての文化政策は、市民が芸術文化を享受でき創造性を発揮できる社会の実現に寄与するものでなければなりません。

芸術文化への関心は、まず芸術文化に親しみ鑑賞する人々の裾野を広げることが原点です。そのことが芸術文化の担い手を掘り起こし、育てることへと繋がり、市民一人ひとりが芸術文化を享受し創造性を発揮できる社会の実現につながっていきます。

岡崎市では近年、シビックセンターに音楽専用ホールとして設計されたコンサートホール「コロネット」を設置し、芸術活動のための環境を整備してきました。

また、市民会館とせきれいホールは緞帳や吊物を備えているため、場面転換が必要な演劇や、出演者の入替えが必要なコンクールなどにおいて多目的に利用されてきました。

特に、観客席はスロープ式に段差をつけた固定席で、前席の観客に視界をさえぎられることなく舞台全体を見渡すことができるため、視覚的条件にも優れています。このほか、市民会館とせきれいホールでは一度に大勢の観客に均一な芸術を鑑賞させることが可能であり、市民が身近に芸術に触れる施設として長年利用されてきました。

その一方で、市民会館やせきれいホールは老朽化し、設備的にも現代的な利用方法に合わない水準となっており、岡崎市民が芸術文化活動を行い、岡崎の文化を振興する施設としては、さまざまな支障が生じています。

これらのことをふまえ、新文化会館の整備の基本的な考え方として、次の2点を設定します。

老朽化した文化ホールを廃止し、現行文化ホールの機能を強化した新文化会館を整備します。

芸術活動の拠点施設として魅力の高いホールを整備し、市内の芸術活動を活発にします。

(2)新文化会館整備の基本方針

前項に掲げた基本的な考え方にに基づき、以下のア～カを基本方針とします。

ア．舞台利用者が使いやすいホール

搬入口と舞台袖は円滑に舞台転換ができる広さを備え、信頼性の高い音響照明設備をはじめとする舞台機構が適切に配置された、舞台技術者が使いやすいホールとします。

使い勝手の良い楽屋を備え、舞台衣装を着けたまますれ違える広さの廊下で結ばれ、本番にむけて練習ができるリハーサル室を設けた、出演者が使いやすいホールとします。

イ．観客が舞台芸術に集中できる快適なホール

開場前の待ち合わせに配慮してロビーを設けます。また化粧室は公演中の休憩時間など短時間一斉利用に配慮し、わかりやすい場所に配置するとともに、女性用を広くとることとします。

客席は前席の観客が視界をさえぎらないようスロープ式に段差をつけた固定席とし、座り心地が良く長時間同じ姿勢をとることができる座席を設置し、舞台芸術に集中できる快適なホールとします。

ウ．駐車場の確保

現行文化ホールの駐車台数を上回る規模の駐車場の確保をめざします。

エ．質の高い舞台芸術を鑑賞できる場の提供

専門的な知識を持つスタッフを置き、一流の芸術家が上演しやすい環境を整えることで、プロの公演を誘引し、市民が質の高い舞台芸術を鑑賞できる場を提供します。

オ．芸術団体の活発な活動拠点の提供

創造活動と練習ができるリハーサル室を設置するとともに、本番公演のために質の高いホール環境を整備し、芸術団体が活発に活動できる拠点を提供します。

カ．芸術文化情報を収集、発信する拠点の創設

新文化会館の整備が契機となって、市民が芸術文化に親しむ機会が増え、活動の担い手が育ち、活動グループが相互に交流・発信することを通じて岡崎の芸術文化がさらにレベルアップすることをめざし、芸術文化情報を収集・発信する拠点を創設します。

これらの基本方針について、以下に詳しく説明をいたします。

ア．舞台利用者が使いやすいホール

搬入口と舞台袖は円滑に舞台転換ができる広さを備え、信頼性の高い音響照明設備をはじめとする舞台機構が適切に配置された、舞台技術者が使いやすいホールとします。

使い勝手の良い楽屋を備え、舞台衣装を着けたまますれ違える広さの廊下で結ばれ、本番にむけて練習ができるリハーサル室を設けた、出演者が使いやすいホールとします。

現在の芸術公演では、舞台道具の搬入には荷台の長さが 10m 近くある大型トラックや横開きのアルミウィング車が利用されます。これは舞台装置が本格的になり、舞台道具や楽器類が大きな寸法を持つようになったため、搬入口の幅や舞台転換の際に舞台道具を退避させる舞台袖や舞台奥行は、これに対応する大きさを持つ必要があります。

また高性能な音響照明設備を、適切に配置することで、舞台技術者が使いやすいホールとします。

楽屋エリアについては、多目的ホールは上演する演目も多様であり、アマチュアからプロまでの幅広い出演に対応するため、さまざまな利用を想定した整備を進めていきます。

さらに本番にむけた練習の行えるリハーサル室を整備し、舞台出演者が使いやすいホールとします。

イ．観客が舞台芸術に集中できる快適なホール

開場前の待ち合わせに配慮してロビーを設けます。また化粧室は公演中の休憩時間など短時間一斉利用に配慮し、わかりやすい場所に配置するとともに、女性用を広くとることとします。

客席は前席の観客が視界をさえぎらないようスロープ式に段差をつけた固定席とし、座り心地が良く長時間同じ姿勢をとることができる座席を設置し、舞台芸術に集中できる快適なホールとします。

市民会館とせきれいホールはその構造上、無料エリアであるロビーと有料エリアであるホワイエが区分されていないため、屋外で開場時間を待つこととなり、開場待ちの列が長くなりがちな自由席公演では特に不便を強いられています。新文化会館の整備にあたってはロビーを設け、開場まで快適に過ごせる環境を整え

ます。

化粧室は公演中の休憩時間など、短時間に多くの観客が一斉に利用するため、市民会館とせきれいホールでは長い行列が生じています。また化粧室の利用待ちについては男性に比べて女性の方が長くなる傾向があるため、女性用を広くとることとします。

客席については芸術鑑賞に配慮し、前席の観客が視覚をさえぎることなく舞台全体を見渡すことができ、視覚的条件に優れた、スロープ式に段差をつけた固定席とします。さらに、芸術鑑賞では長時間にわたり同じ姿勢をとるため、座り心地に配慮した客席環境を整備し、舞台芸術に集中できる快適なホールとすることとします。

ウ．駐車場の確保

現行文化ホールの駐車台数を上回る規模の駐車場の確保をめざします。

現行文化ホールは駐車場の絶対数が不足しており、大規模催事では他の駐車場を使わないと収容できない状況になっています。

文化ホールは、一般用駐車場にとどまらず、出演者用、スタッフ用の駐車台数を確保する必要があるため、敷地の規模、形状、接道状況等の諸条件を考慮しながら、十分な規模の駐車場の確保をめざします。

エ．質の高い舞台芸術を鑑賞できる場の提供

専門的な知識を持つスタッフを置き、一流の芸術家が上演しやすい環境を整えることで、プロの公演を誘引し、市民が質の高い舞台芸術を鑑賞できる場を提供します。

一流の芸術家が新文化会館の舞台上で上演し、芸術文化に親しみ鑑賞する人々の裾野を広げ、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の市民が身近に舞台芸術を鑑賞できる場を提供するためには、プロの公演が十分可能となる設備を整える必要があります。

そのために、舞台機能と附属機能を現代の水準に合ったものにし、プロの出演者や舞台技術者が使いやすい施設を整備するとともに、舞台芸術を支えるための専門的な知識を有したスタッフを配置し、レベルの高い舞台芸術の公演にふさわしいホ

ールとして選ばれることにより、市民が質の高い舞台芸術を鑑賞できる場を提供します。

オ．芸術団体の活発な活動拠点の提供

創造活動と練習ができるリハーサル室を設置するとともに、本番公演のために質の高いホール環境を整備し、芸術団体が活発に活動できる拠点を提供します。

新文化会館が芸術団体の活発な活動拠点となるためには、ホール環境の質を高めるとともに、創造、練習、公演という、それぞれの段階で活動できる場を提供する必要があります。

そのために、本番公演と同じ感覚で練習を行うことのできるリハーサル室を整備し、創造活動や練習を活発に行える拠点を提供します。

カ．芸術文化情報を収集、発信する拠点の創設

新文化会館の整備が契機となって、市民が芸術文化に親しむ機会が増え、活動の担い手が育ち、活動グループが相互に交流・発信することを通じて岡崎の芸術文化がさらにレベルアップすることをめざし、芸術文化情報を収集・発信する拠点を創設します。

芸術文化活動を支えていくためには、文化的情報を収集し、市民に日常的に提供していくことが重要です。また、市民の芸術文化活動を一層活発化させるためには、活動団体間の交流を促進させることが必要です。その手段として鑑賞活動や公演活動といった芸術文化情報を収集・発信する拠点を創設します。

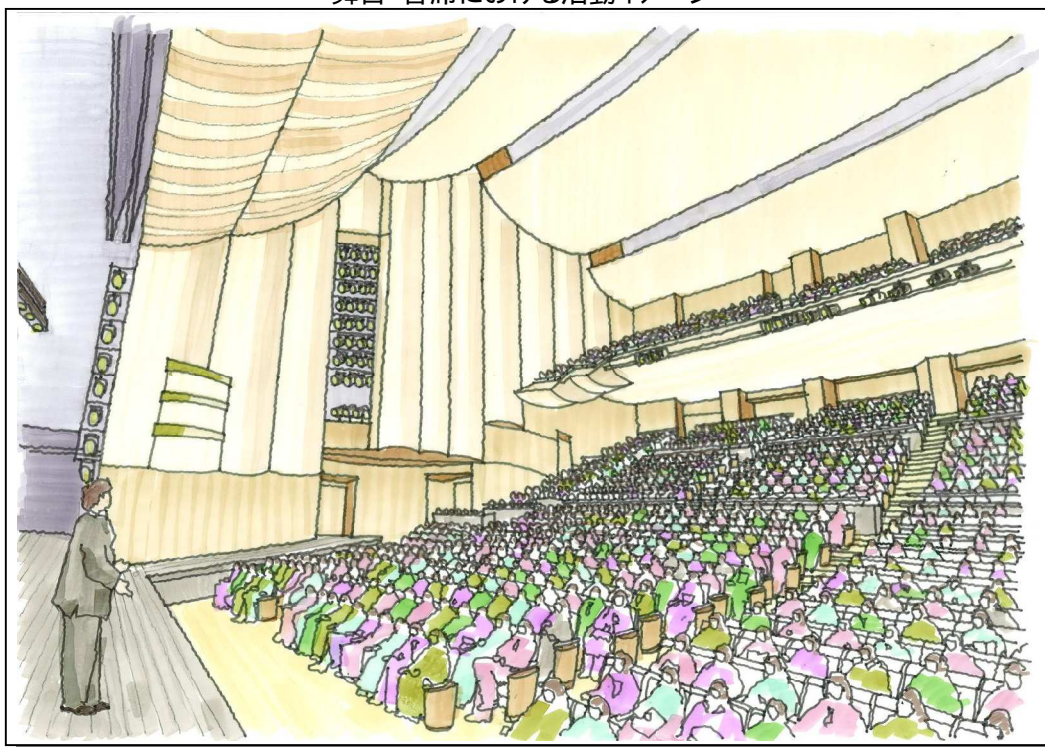
3.新文化会館の機能と施設構成

新文化会館の整備にあたっては、岡崎市の文化ホールをとりまく課題に対応し、芸術活動の拠点施設として魅力の高いホールとするため、先に掲げた基本方針に沿い、次のような機能と施設構成を想定します。なお大ホールは市民会館の代替施設、中ホールはせきれいホールの代替施設と位置づけ、これまで担ってきた市民に広く開かれた大規模文化ホールとしての収容能力の保持に配慮します。

(1)舞台機能と構成

構 成		構 成 要 素
舞台施設		<ul style="list-style-type: none"> ・ 緞帳や吊物を備え、多目的な舞台芸術に対応可能な舞台とすることをめざす ・ 舞台袖は上手、下手あわせて舞台間口と同程度の幅の確保をめざす ・ 舞台奥行は舞台間口と同程度の長さの確保をめざす
規模	大ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台間口は現行市民会館と同程度の幅の確保をめざす ・ 1,500 席程度の座席の確保をめざす
	中ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台間口は現行せきれいホール以上の幅の確保をめざす ・ 500 席以上の座席の確保をめざす
観客席施設		<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定席で、スロープ式に段差をつけた多層式構造とする ・ 化粧室は公演中の休憩時間にも余裕をもって使える便座数の確保をめざす

舞台・客席における活動イメージ



(2) 附属機能と構成

構成	構成要素
舞台 附属施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬入口は、大型トラックが駐車でき、降雨時の作業を可能とする屋根があり、荷台の側面と背面から出し入れできるプラットフォーム式をめざす ・ 楽屋エリアは男女別に大中小規模の楽屋を複数設置することをめざす
練習施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防音性能の高いリハーサル室の設置をめざす

リハーサル室における活動イメージ



(3) その他機能と構成

構成	構成要素
駐車場 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行文化ホール以上の駐車台数をめざし、建設用地の交通アクセスに応じた検討を加える

各機能についての具体的内容については、今後、基本計画策定時に詳細検討を進めていきます。

4. 建設候補地の検討

(1) 建設候補地と立地条件

新文化会館の建設候補地

- A . 現行市民会館敷地
- B . 中心市街地地区
- C . 中央総合公園文化ゾーン



新文化会館の建設候補地については、現段階では検討中で決定していません。現在、上記3地区を優先的に建設地として検討していますが、それぞれに課題が存在します。都市構造上や市民の交通利便性からも、現行敷地や中心市街地が適地と考えますが、現行市民会館敷地では敷地条件から施設機能に制約がかかることや工事中の閉館が生じることなどがあり、また中心市街地地区では、施設機能は満たすも、別途用地費が必要になることや地権者の合意形成が前提となることなどがあります。また中央総合公園の文化ゾーンでは、駐車場を含め十分な敷地の確保は可能ですが、交通手段が限定され、シャトルバスの運行など交通弱者の方への配慮が欠かせません。

建設候補地として選定した3地区について、建設可能な施設規模をはじめアクセス面、現行の法規制面、その他の側面からその特徴を整理すると次の表のとおりになります。

建設候補地とその特徴

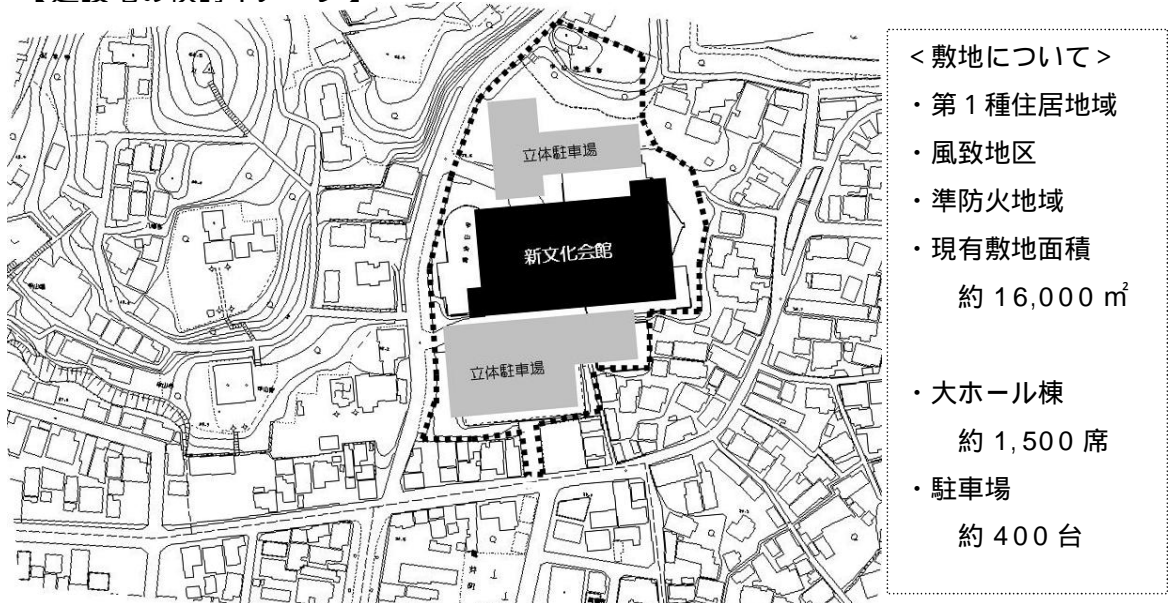
項目	A .現行市民会館敷地	B .中心市街地地区	C .中央総合公園文化ゾーン
建設可能な施設規模	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1500 席程度の大ホール ・ 中ホール併設不可 ・ 駐車場 400 台程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1500 席程度の大ホール ・ 中ホール併設可能性あり ・ 駐車場 500 台程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1500 席程度の大ホール ・ 500 席以上の中ホール ・ 駐車場 500 台程度
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最寄のバス停から利用できるバス路線は限定的である ・ 車のアクセス条件が悪く、改善には接続道路の改善が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都心部に位置し、市内各方面へのバス路線を利用できる。 ・ 車のアクセスは、周辺道路の幅員が広く、接道条件もよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郊外に位置し、鉄道駅から離れており、バス路線も極めて限定的である ・ 交通弱者の方に配慮し、シャトルバスなどの交通手段の確保が必要 ・ 車のアクセスは、周辺道路の幅員が広く、接道条件もよいが、郊外地のため、さらに 1,000 台程度の駐車場が必要
法規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風致地区指定による高さ制限(15m)があり、風致地区解除が必要 ・ 都市計画用途が第 1 種住居地域であり、劇場建設にあたっては近隣商業地区への用途地域変更が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画用途が商業地域であり、劇場を建設することが可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡崎中央総合公園事業計画変更の認可が必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 甲山会館の取壊し及び廃止が必要 ・ 工事期間中(3年程度)の休館(甲山会館を含む)が必要 ・ 中ホールが併設できないため、市民会館大ホールとは別に、せきれいホールの建替計画を後年立案する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別途、土地を取得もしくは合築が必要となり、地権者との合意が形成されていることが前提条件になるため、実現年度に不確定要素が残る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央総合公園文化ゾーンであることを意識した動線等の整備が必要 ・ 大ホール、中ホールの段階的整備が可能

各候補地の具体的な検討イメージについては、次ページ以降に記述します。

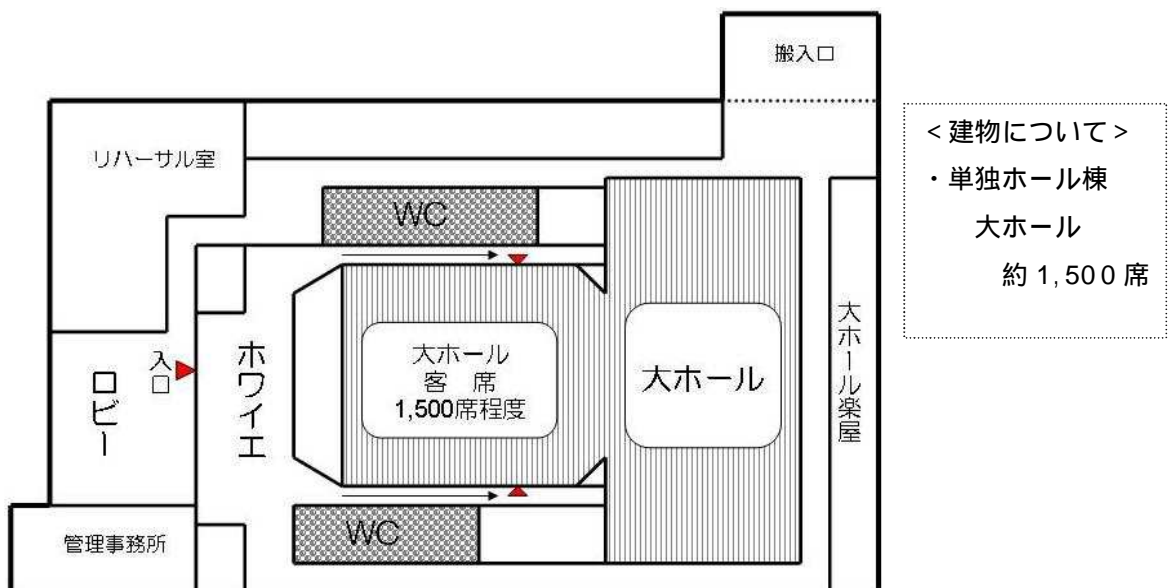
A. 現行市民会館敷地の検討 <ケーススタディA>

現行市民会館敷地は、敷地条件により 1500 席の大ホールの確保と駐車場増設を優先した場合、中ホール併設が不可能となります。この敷地を選定した場合、現行市民会館の建替えとしての大ホール単独の建設となり、また建設にあたり甲山会館の取壊し及び廃止が必要となります。さらに風致地区指定による高さ制限（15m）があり、風致地区解除が必要なうえ、劇場型施設の建設にあたり第1種住居地域から近隣商業地区への都市計画用途変更が必要です。なお現行市民会館の解体から新文化会館建設までの工事期間として3年程度の休館が必要となります。

【建設地の検討イメージ】



【施設の検討イメージ】



B . 中心市街地地区の検討 < ケーススタディ B >

中心市街地地区は、都市計画用途も商業地域であり劇場型施設の建設が可能です。また都心部に位置するため市内各方面へのバス路線が利用でき、さらに周辺道路の幅員が広く接道条件もよいため車のアクセスにも優れています。しかし市が土地を保有していないため、中心市街地の再生の動きの中で、民間街区の買収や大型商業施設との合築が必須となります。この地区の選定は、市単独では不能のため、今後地権者等の意向確認を進めていきますが、合意形成が得られない場合は候補地の選定から除外となります。

【建設地の検討イメージ】

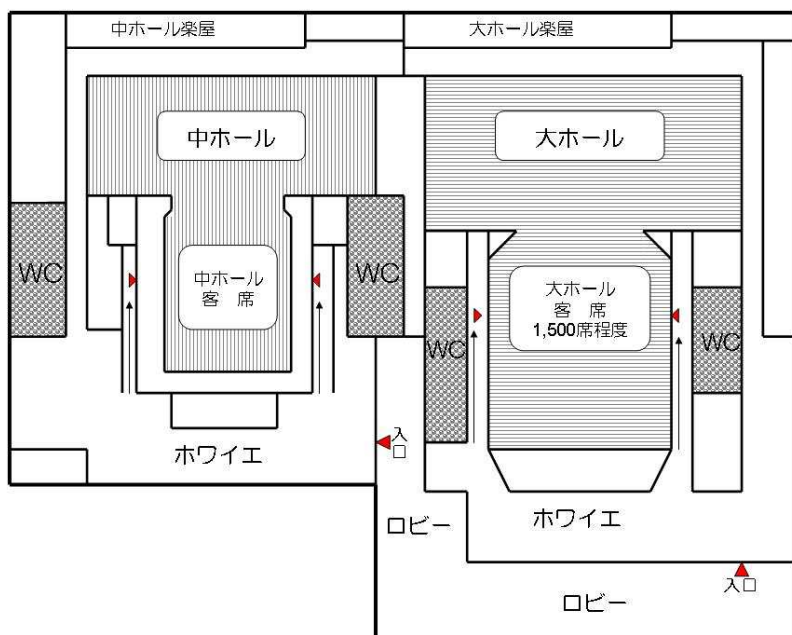


< 敷地について >

- ・ 商業地域
- ・ 防火地域
- ・ 高度利用地区
- ・ 駐車場整備地区

建設候補地は、現在検討中のため街区の設定はしていません。

【施設の検討イメージ】



< 建物について >

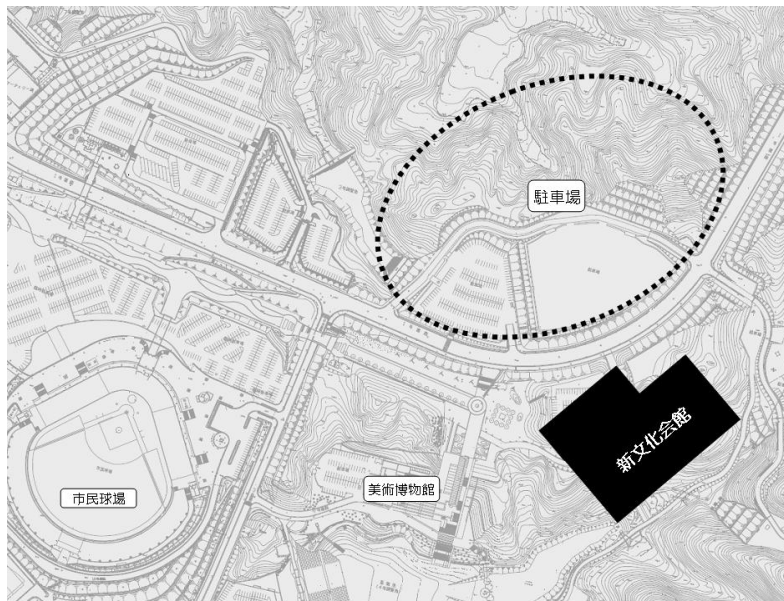
- ・ 複合ホール棟
 - 大ホール
約 1,500 席
 - 中ホール
併設可能性有り
- リハーサル室、搬入口などの附属機能は別の階への設置を検討しています。
- 低層階を他の公共施設や商業施設として、階上にホール施設を想定したイメージ図です。

C.中央総合公園文化ゾーンの検討 <ケーススタディC>

中央総合公園文化ゾーンは、同公園の事業計画でも文化施設敷地と位置づけられており、駐車場を含め十分な敷地の確保は可能ですが、交通手段が限定され、シャトルバスの運行など交通弱者の方への配慮が欠かせません。また郊外地のため、現行駐車場用地のほか、さらに1,000台程度の駐車場を検討する必要があります。

なお、建設にあたっては中央総合公園事業計画変更の認可が必要となります。

【建設地の検討イメージ】

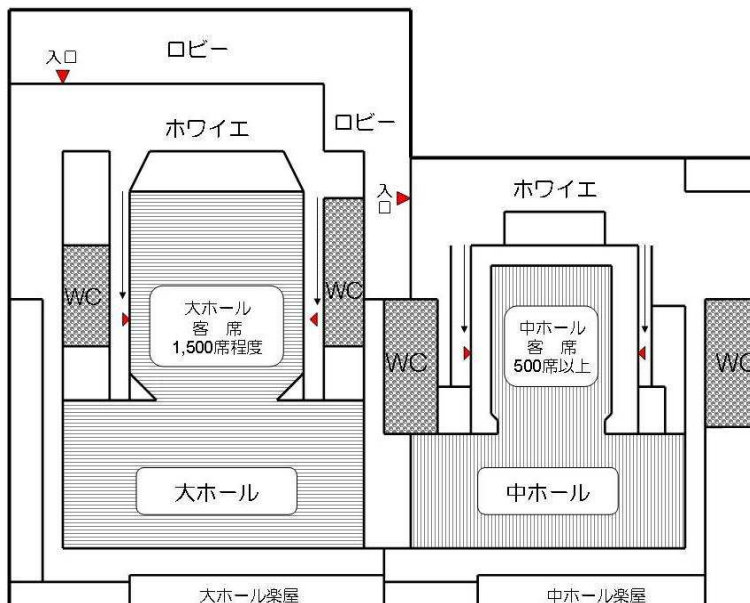


<敷地について>

- ・市街化調整区域
- ・岡崎中央総合公園内

- ・建物用地
約 19,000 m²
- ・駐車場用地（現有分）
約 16,000 m²
約 500 台
- ・駐車場用地（拡張分）
約 1,000 台程度の
駐車場整備必要

【施設の検討イメージ】



<建物について>

- ・複合ホール棟
- 大ホール
約 1,500 席
- 中ホール
500 席以上
- リハーサル室、搬入口などの附属機能は別の階への設置を検討しています。
- 大ホール、中ホールを分離し、段階整備も可能

(2)建設候補地の選定

各建設候補地のメリット、デメリットについてさらに精査するとともに、行政の内部調整、現地権者の方との合意形成の可能性を見極め、文化ホールを利用する市民の皆様の声を聴きながら、それらを総合的に判断した上で、候補地としての検討作業を進めていきます。

5.施設整備にむけて

この基本構想をもとに利用者から意見を聴くとともに建設候補地の選定を進め、用地確定後に基本計画の策定、パブリックコメントを実施したうえで、設計、建設の事業化を進めていきます。

【整備スケジュール イメージ】

